

・ 活動に参加するにあたっての動機

私は新入社員で3月まで大学生でした。福島県、宮城県に大学の友人や後輩がおりその方たちの状況を実際に自分の目で確かめて震災の現在の状況を知りたいと感じたからです。また指導社員の先輩の5月の体験談を聞いて私自身胸が熱くなるものがあり参加を希望させて頂きました。

・ 被災地を訪問しての感想

周りに建物が少ないなど感じました。津波の影響で流されてしまったと感じると震災の被害の大きさを強く感じました。今現在は特に被害もなく生活できそうな状況でも実際には生活も出来なく夜は立ち入りも禁止地区であるという事実を聞き実際に行かないと分からないものだと思います。

・ ボランティアセンターでの活動に関する感想

人手が足りない強く感じました。実際に活動してみて始めはJ T Bグループだけでも30人もいるので作業はあっという間に終わると安易に考えていました。ですが30名もいて担当のビニールハウスは2日掛けてわずか2つしか解体が出来ませんでした。復興には人手と時間が必要でまだまだ足りないと思いました。

・ 活動を体験していない人々へ伝えたいこと など

復興作業には時間と人手が足りません。また最近ではテレビなどで被災地での情報は復興作業が進んでいると放映されている物が多く私自身実際今回来てみてまだまだ復興作業が進んでいないことがわかりました。また活動してみて人手が足りないことや1人では何も出来ないことを痛感しました。

ただうれしかったこともあります。今回の解体作業ではすごく草取りに苦戦しました。しぶとい根のついた草を大人が一つの草に対して何人もが協力して時間をかけて抜けたときの喜びは忘れられません。たかが草ですが1人ではできないことを何人もが協力して知恵を振り絞り草を抜いたときに喜びを感じました。今回参加させていただいて楽しかったという大変失礼だと思いますが協力する大切さを改めて実感することが出来ました。いつ自分たちにも地震が来るか分かりません。そんなときに助けてくれるのはやはり人だと思います。是非まだ参加されていない方は参加して実際の現場の状況と復興の大変さを実感してほしいと私は参加して強く感じました。

ただ勘違いをしてはいけないことがあります。

宮城県の出身の友人が話をしてくれました。

震災があったからって私たちは可哀想ではない。そのことをみんな勘違いしないでほしい。と話をしてくれました。

すごく力強い言葉でした。震災は甚大な被害が出ましたが、震災から一生懸命立ち上がろうとしている方々がいることを私たちは忘れてはいけないと思います。
今回参加できたことを今後にかけて活かして生きたいと思いました。

